

# 一般質問通告一覧表(第10回定例会)

平成28年12月13日招集

<p>1. JR北海道が室蘭線維持困難とすることへの町の対応は</p>	<p>JR北海道は11月18日、「JR単独では維持が困難な路線」を10路線13区間とし、抜本的な見直しを進めると正式に発表しました。この中には室蘭線沼ノ端―岩見沢間も含まれており、本町としても非常に大きな問題です。</p> <p>この問題に対する栗山町の対応についての考え方を伺います。</p>	<p>8番 千葉清己</p>
-------------------------------------	---	--------------------

<p>1. 就学支援の拡充を</p>	<p>厚生労働省の調査によれば、昭和60年10.9%だった子どもの貧困率は年々増え、平成24年には16.3%、約6人に1人と先進41カ国中34位です。</p> <p>経済的に困窮した家庭へ就学援助制度があります。本町における生活保護受給世帯の児童生徒（要保護）と生活保護基準の1.3倍の世帯の児童生徒（準要保護）の割合は、平成28年度で全児童生徒数の24.9%、4分の1にのぼっています。</p> <p>そこで、就学支援の拡充を求め、以下3項目について質問いたします。</p> <p>① 安倍政権は平成25年8月から最大で10%の生活保護基準削減を強行しましたが、その影響により就学援助の認定から外れた児童生徒数は各年度何人いたのでしょうか。</p> <p>② 道内では既に、準要保護を生保基準の1.5倍で算定している自治体が赤平市、厚真町、遠軽町、佐呂間町、広尾町、池田町、羅臼町、根室市、標津町など9市町あります。本町でも1.3倍から引き上げてはどうでしょうか。</p> <p>③ 就学援助費支給時期は、5月に所得が確定することから7月に行われています。しかしながら、生活保護世帯には入学準備金を入学前の3月1日に支給しています。その世帯に準ずる要保護世帯について、苫小牧市では北海道で初めて新入学児童生徒学用品費を新中学生900人を対象に前倒しをして3月支給に踏み切りました。本町でも入学前支給を行うことを含め貧困対策を求めますが見解を伺います。</p>	<p>5番 重山雅世</p>
<p>2. 老人性難聴者に補聴器購入費の助成を</p>	<p>難聴は高齢者にとって最も一般的な感覚障害です。日常生活に支障をきたす程度の聴力障害と定義している40デシベルを超える難聴者は、70歳代男性で5～6人に1人、女性で10人に1人程度であります。</p> <p>聴力が70デシベル以上であれば、聴覚障害者と認められ、本人の申請に基づき身体障害者手帳が交付され、補聴器購入の費用が支給されます。しかし手帳が交付されない軽・中程度の場合は、自費で購入しなければならず大きな負担となっています。耳鼻科で補聴器使用を勧めても、経済的な理由から我慢する患者もいるとのこと。補聴器は買えばそのまま使えるものではなく、補聴訓練も場合によっては必要です。</p> <p>難聴のもたらす影響は、国内外の疫学研究から数多く報じられています。高齢期の難聴はコミュ</p>	

ニケーション、抑うつ、意欲低下、認知機能低下、日常生活動作低下、脳委縮、要介護リスクや死亡率の増加などが指摘されています。難聴が関わる負の影響の中でも、特に認知機能低下との因果関係は研究者の関心が高いものです。

生活機能を維持し自立して健康長寿を高めるために、老人福祉政策として補聴器購入の費用負担の一部助成を求めますが見解を伺います。

5 番  
重 山 雅 世

<p>1. 「レンガ通り」のメンテナンスは</p> <p>2. 公共施設内トイレの洋式への移行は</p>	<p>平成2年、町の事業による「菊水通り」の歩道改修工事が行われた際、町民有志のグループのアイデアの下、手作りレンガが敷き詰められました。</p> <p>町民の皆様一枚500円でレンガを購入していただき、思い思いのメッセージが自由に彫刻され通称「レンガ通り」として整備、誕生いたしました。</p> <p>平成4年7月、財団法人北海道開発協会による手づくりふるさと賞「くらしに根づく施設」で表彰され、受賞を記念したプレートが設置されています。その後、栗山小学校北側、中央通り、公園通りと歩道にレンガが敷き詰められてきました。</p> <p>時間の経過に伴って地盤に波が生じたり、管理の手がなかなか行き届いていない箇所も見受けられます。</p> <p>レンガ通りについては、一般の舗装道路の損壊と異なり、計画的なメンテナンスが必要と思われませんが、所見を伺います。</p> <p>本町の小中学校のトイレに関しては、洋式トイレの割合は61%になっています。</p> <p>家庭では、洋式が主流になっており、子どもからは馴染みが薄く、当然使い勝手が悪く使いづらいつの声も寄せられています。</p> <p>くりやまカルチャープラザ「Eki」や総合福祉センター「しゃるる」、子育て支援センターにおいては、和式トイレは設置されておられません。</p> <p>一方、ふじスポーツ広場、栗山、角田、継立地区の水泳プールは、全て和式になっています。特に子どもたちが多く利用するであろう施設においては、早急な対応が求められます。</p> <p>大規模災害時の避難所としての役割も期待されている各施設においても改善が求められると思いますが、今後の対応について伺います。</p>	<p>3番 檜 崎 忠 彦</p>
--	--	-----------------------